

最優秀賞

## 夢があること



小高中学校 三年

梅田夏希



「ねえねえ、将来の夢教えて。」

夢……。私の夢ってなんだろう。夢と言えるものはあるのだろうか。そんな疑問が頭をよぎる。問いかけても誰も教えてくれない、どこかに置き去りにしてきたような不思議な感覚。まあそのうち、なんとかなるだろう。以前の私は答えを見つけないともせず、なんとなく毎日を過ごしていた。しかし今年は中学三年生。自分の進路と真剣に向き合わなければならぬ期間に入った。この時期は、将来の不安や受験へのプレッシャーと闘う時期でもある。私だけではなく、もしかしたら皆さんも経験しているのではないだろうか。

みんなは夢についてどう考えているのだろうか。将来叶えたい夢がはっきりしている人、まだ夢と言えるものが無く漠然としている人など、それぞれだと思う。そんな人にこそぜひ、私のように「自分の夢」について考えてみてほしい。

先ほども述べたように、私には夢と呼べるものがないという時期があった。原因ははっきりしている。私は「人に流されやすい」性格なのだ。友達と会話をする時も、誰かの話の内容や多数の人の意見に合わせたり、一度否定されるとすぐに自分の考えを曲げてしまったりする。自分の考えをあまり言わず、流されてしまうことが多かった。「否定されるのが嫌だ」「なんとなく周りに合わせておけばまるく収まる」。そんな気持ちから、いつしか自分の意見を隠すようになった。今思うと、私を否定していたのは周りの友達ではなく、私自身だったのかもしれない。流されながら過ごしているうちに、次第に自分の意見さえも持たなくなっていく、自分のなりたいたいもの、やりたいこともどんどんなくなってしまっていた。

私が一番困ったのは、授業で自分の夢について書くときだった。これといった夢がない私は、いつも近くの友人と

何を書こうかと話しながら、その時間をだらだらと過ごしていた。そんな私に、自分を変えらるきっかけが訪れる。その時間、私とは対照的に一人で黙々と自分の夢を書く人物が目の前に座っていた。彼女にどんなことを書いたのか聞いてみると、「看護師になりたい」という夢を嬉しそうに話してくれた。その熱心な姿は、今でも鮮明に覚えている。その時は強く感じた。自分の夢について話す彼女はともきらきらしている、私とは正反対だと。

夢を語る彼女と夢を語れない私。同じ中学生なのに、何がこんなにも違うのだろう。まず、夢がない私は自分のやりたいことも分からない。そのため、どんな道に進めばいいのか見当がつかなかった。そうなれば、自分がどのような行動すればいいのか判断できなくなり、未来が不安になってくる。無情にも時間は過ぎてゆく。怖い。私はまるで迷子のようなだった。一方、夢をもつ彼女は目的がはっきりしている。進むべき道を照らす光が彼女の希望となり、やるべきことに精一杯取り組むことができる。これが、彼女がきらきらして見えた理由だ。それ以来私は、夢を探そうと決めた。最初にしたことは、紙に好きな事を書き出すことだ。私の好きなこと。絵を描く、工作、ピアノ、歌を歌う、子供と遊ぶ。そうするうちに、幼稚園の先生になりたいという夢ができた。それを叶えるためには楽しいことばかりではなく、辛い事や大変なこともあるだろう。しかし、自分の夢のために頑張ることができると思うとわくわくする。

夢をもち始めてから、未来の設計図を立てるようになった。自分だけの設計図。今はその設計図を基に土台を作る

時期だ。ここから私の未来はスタートする。ようやく道を照らす希望の光を見つけることができた。一度できたその夢は、未来へ進む自分の道標になってくれるだろう。壁に突き当たったり、予測していなかったことが起きたりしても大丈夫。その時はまた設計図を開けばいい。そうして修正をしながら進んでいきたいと思う。もうあの時の私ではない。夢を見つけた私は、目指す場所に向かって今日も一歩前進する。まだ芽を出したばかりの小さな夢だけれど、大きな花を咲かせられるよう、大切に育てていきたい。



#### 発表者コメント

夢。それは自分を支えてくれるものです。私の実体験をもとに、夢をもつことの大切さを精一杯伝えたいと思います。